電波新聞 2013年10月1日　掲載記事

東京コイルエンジニアリング
メタル系パワーインダクタ
1610サイズなど ラインアップ拡充

東京コイルエンジニアリングは、磁性金属粉末を使ったメタル系パワーインダクタ「MCPシリーズ」のラインアップを拡充した。

スマートフォンやタブレットPCをはじめとするモバイル機器の電源ラインの用途に合わせて、小型化、薄型化、多連化などの省スペース設計に対応。今回、小型品と薄型品をシリーズに追加した。

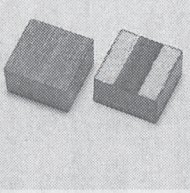
MCPシリーズは、磁性金属粉末系シートをプレスし、銅線によるコイルを内蔵して、電極をスパッタリングで形成したもの。

閉磁路構造によって、コア鳴きを抑え、低漏れ磁束を実現。また、大電流対応、低直流抵抗、高効率を特徴としている。

これまで2520サイズや2016サイズを品ぞろえ。さらに同シリーズにアレイタイプをラインアップしている。2個を並列および直列に接続し、一つにパッケージ化したもの。異なるインダクタンスの組み合わせが可能であり、様々なアレイ化ニーズに対応できる。

アレイ化によって、2ラインに対応できるため、実装工数を半減でき、しかも実装面積を省スペース化できるため、高密度実装化に寄与できる。

今回、追加したのは最小サイズとして1・6×1ミリ対の1610サイズ、最薄品として2520サイズの厚み0・6ミリ対品をラインアップした。



東京コイルエンジニアリングのメタル系パワーインダクタ「MCPシリーズ」

フィルムコンデンサでは、クラスX1／X2／Y2のノイズ対策用をはじめ、主要なIGBTメーカーの端子に対応したスナバ回路用、ラジアルタイプ、ねじ端子タイプの電源平滑用など。

これによって、NECトーキンはタンタル、積層セラミック、アルミ電解、フィルムといった主要コンデンサ全てを取り扱うことになる。

は、自動車、LED照明など長寿命を要求する分野に最適なアキシャルリードタイプ、高耐圧、大容量、長寿命などを特徴とする基板自立タイプや、ねじ端子タイプといった大型品。